

第7章 文化遺産の保存活用推進のための体制整備の方針

南相馬市の歴史文化を活かしたまちづくりに向け、本構想を実行力のあるものとするための体制整備を図る。

① 市民と連携した体制の構築

南相馬市の歴史文化を活かしたまちづくりを推進するためには、市民の文化遺産の保存活用への理解が不可欠である。行政だけではなく、市民が自ら楽しみ、学べるような、ボランティアガイド育成などの仕組みづくりなど、市民と行政が一体となって実施できる体制を構築する。

② 文化遺産の継承者・支援者の育成

高齢化や東日本大震災の影響等により、文化遺産の担い手が減少しているが、文化遺産を後世へ継承していくためには、その担い手となっている市民の存在が不可欠であり、これらは地域コミュニティーの維持・継承に活躍している。現在も地域に数多く継承されている民俗芸能や、南相馬市を代表する相馬野馬追の担い手などを育成する。また、文化遺産を地域住民が自ら保存活用する取り組みを支援し、住民が誇りを持てる地域づくりを推進する。

③ 他自治体との協力体制の充実

相馬野馬追など、南相馬市の歴史文化をきっかけに他自治体とつながることで、双方の情報共有による意識向上や調査研究の深化にも役立てることができる。また、互いの共通点や相違点などを知ることで、南相馬の歴史文化の特徴がより明確化し、わかりやすくなることでさらに興味関心を引出すことができるため、市域を超えた協力体制を充実させる。

④ 他部局との連携体制の構築

本構想をより実行力のある内容とするためには、重点的取り組みにあげられている観光サインの設置、ふるさと学習の手引きや副読本の作成、生涯学習センターからの情報発信など、文化財行政だけではなく、観光、都市計画、学校教育部局など、多方面の部局との連携が不可欠である。

構想策定を契機に、連携体制を構築することで、互いに相乗効果を生み出し、市全域の歴史文化のまちづくりに関する取り組みを底上げする。

また、各地の生涯学習センターを通じた文化遺産の情報発信を実施する。

【主な連携の取り組み】

- 文化財部局、観光部局、市民が協働した観光ルートづくり。
- 文化財部局と学校の意見を踏まえた手引きづくり

⑤文化財行政担当の役割の明確化

復興事業等に伴い増加している緊急的な開発事業に伴う埋蔵文化財調査を行いながら、多岐にわたる文化財の保存活用業務を遂行することが困難となっている。埋蔵文化財調査のほか、保存整備、活用、一般文化財、その他調査に関する部門について、各役割を明確化し、不足しているものについては新たに部門を新設するなど、文化財保護体制の充実を図る。

また、文化財関連施設の中心となる博物館についても、既存の調査研究、資料収集、教育普及活動のほか、市民ボランティアガイドの育成や、相馬野馬追を通年にわたり知ることができる常設展示の改修など、一層の機能充実と強化を図る。